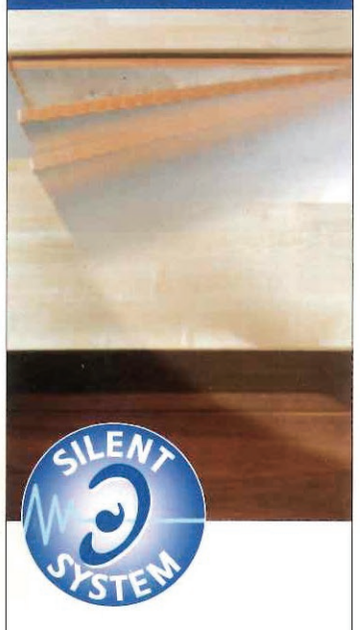
Silent System... made by hettich



ロータリー・ダンパー
だから、効く！

ドイツ ヘティヒ社の
蝶番用サイレントシステム
www.hettich.co.jp

hettich

AT HOME
IN ALL GOOD
FURNITURE.

www.hettich.com

資料請求番号035-Y5

特集 ごろ寝の楽しみ 畳の生活

畳の復活を目指して

クマイ商店・畳ギャラリィ燈心草の挑戦

クマイ商店

東京・上野桜木に店を構えるクマイ商店は、江戸時代から続く畳屋である。店のほど近くにある寛永寺出入りの畳屋として創業。以来3百年、この地で商売をしている。現在、店を切盛りしているのは、社長の熊井芳孝さんと、奥さんで常務の千代子さん。畳屋には珍しく、ショールームとギャラリーを併設している。ショールームでは、さまざまな畳のサンプルを展示するだけでなく、同店のオリジナルの畳を使った家具、作家物のバッグや小物などを販売している。

ギャラリーでは、年に数回、畳に関する展示を企画。和紙作家と組んで、和紙で作った畳縁をつけた畳を展示したり、琉球畳と沖縄の伝統的な楽器「三線（さんしん）」を展示し、そこでアーティストによるミニコンサートを開いてきた。商品やギャラリーは評判を呼んで、近所の人達だけでなく、遠方からも足しげく通うファンも多い。

いま、畳屋の商売は、極めて厳しい状況に立たされている。かつて、わが国の住宅は、当り前のように畳を使っていた。けれど高度成長期あたりから、洋風の生活様式が取り入れられ、和室そのものが次第に姿を消した。さらに町の畳屋の機械化が進み、短時間でたくさんの畳が作れるようになり、畳職人の手がいらなくなった。しかも、以前より和室が少ないため、仕事はない。仕事がほしい畳屋は、安く仕事を請負うしかなく、思うように利益が出ない。そんな悪循環によって、廃業を余儀なくされた畳屋が後を絶たないのだ。

「このままではいけない。もっと畳のよさを広く知ってもらうことで、畳の復権を目指そう」と、同店は8年前に「畳の意識改革」を行ったのである。

手始めに、オリジナルの畳縁を開発。それまで、決まりきったデザインの畳縁しかなかったことに着目し、京都の帯屋と共同で、絹のモダンなデザインの柄の畳縁を作った。絹は丈夫で耐久性もいいため、畳替えをする時でも、洗えば何度でも使える利点もある。

江戸指物をヒントに、組立てられる「タタミスペース＆ベッド」も開発した。釘を一本も使わず、枘とダボで組立てられ、持ち運びも解体も簡単である。「最近のマンションなどは、畳の部屋自体がないところも多い。けれど、暮らしてみて、やっぱり畳の部屋がほしいという人は結構多い。これならば、ちょっとした部屋の隅にも置けるとあって評判がいいんです」と熊井さん。

同店がいま注目しているのは「床の間」だ。「かつて、家の中心は床の間だったと思うんです。西洋では煖炉。そこに写真やオブジェを飾って楽しんでいます。床の間には家宝の掛け軸や壺を飾っていました。けれど、いまの住宅は床の間がなくて、どこが家の中心かわからない。現代の住宅に合う、モダンな床の間があってもいいと思うんです。そういう住宅が増えていくことで、畳の部屋も増えていけば嬉しい」。

クマイ商店オリジナルの「タタミスペース＆ベッド」。半畳（ナチュラル 70,000円、カラー畳 75,000円）、一畳（ナチュラル 120,000円、カラー畳 130,000円）、二畳（ナチュラル 200,000円、カラー畳 220,000円）タイプがある。一畳タイプは、上に布団を敷けばベッドとして使える。カラー畳も選べ、色の組合せを楽しむこともできる。建築家ユニット「ファロデザイン」の野本陽さんがデザインしている。
撮影＝梶原敏英（34頁も）
クマイ商店　東京都台東区上野桜木2-13-3
TEL 03-3823-0901　http://www.kumai.tripod.co.jp/home.html

左がクマイ商店の社長、熊井芳孝さん。右が千代子さん。「畳はおふくろのようなもの、というのが先代の口癖でした。それくらい日本人にとって畳は自然な存在なんです」と千代子さん。

クマイ商店では、住宅の内装施工も行っている。写真は、和室が欲しいという要望で、もともと一部屋だった洋室の半分を畳敷にしたリフォーム例。フローリングの上に直接根太を敷き、その上に下地、畳を敷いている。畳も建具も取り外せるため、ゆくゆくは大がかりな工事をしなくても洋室に戻せるとあって、このリフォームは好評である。

同店のなかにある「K's Green Gallery」。10月18日～11月12日は、琉球畳と沖縄の伝統的な楽器「三線」を展示。三線のミニライブも開催し、好評を博した。